

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100383		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)		
所在地	和歌山県和歌山市二筋目11番		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	平成25年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

統一したチームケアで利用者の混乱を防ぎ日々穏やかに生活する事により認知症が進行せず現状維持し、安全に安心して生活していただけるように支援すること力を入れている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3090100383-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年9月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、理念に「明るい笑顔はみんなの宝」と掲げ、接遇マナーが介護の基本との考えの下、「あいさつ、ことばかけ、笑顔」をモットーに日々のケアを実践しています。職員は利用者の出来る事を見出し、役割を持って暮らし続けられるような支援について検討を重ね、職員が「ありがとう」の感謝の言葉を伝える取り組みから利用者の意欲を引出し、排泄や移動等、日常生活の中で自立支援に繋がっています。ホームの夏祭りでは地域の方の参加を得るために自治会館などにポスターを貼るなどの取り組みの他、ボランティアの受け入れや保育園との交流の実現など、積極的な働きかけを通して利用者が交流できる機会が増えています。また災害時に近隣の小学校に安全に避難できるよう検討しており、利用者が地域の中で安心して暮らし続けられるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい笑顔はみんなの宝」を理念としている	理念である「明るい笑顔はみんなの宝」を玄関に掲げ、新人職員には入職時に理念に込めた思いを伝えています。目標の「挨拶、ことばかけ、笑顔」は接遇の基本と心得、日々のケアの中で活かされているかミーティングで振り返り、理念の実践に向け全職員で日々の支援に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会との交流、夏祭りのイベントを公開し、地域の方々との交流を図る	利用している薬局から地域の情報を得て、神社の祭りに出かけたり、近隣の他施設とは互いに行き来し交流しています。保育園児や中学生が歌の披露やゲームのボランティアで訪れたり、ホームの夏祭りは地域へ参加を呼びかけ、年々参加者が増えてきています。また散歩で出会った時には挨拶を交わすなど、交流の機会が持てるよう支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じて地域貢献をしようとするが、実施出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括職員、他の施設の管理者、家族等で構成され、ホームの状況を公表し、話し合いや意見交換をしている	会議は、地域包括支援センター職員、薬局、訪問看護師、家族、他施設職員、時には認知症ケアの専門家等の参加を得て年6回開催しています。運営状況や活動報告を行い、防災についてや他の事業所の取り組み等、意見交換をしています。出された意見については、その都度ホームの取り組み状況などを説明すると共に運営に反映させています。議事録は全家族に送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、意見交換している	更新手続きや事業内容の変更の報告、困難事例の相談等、気軽に市へ出向いて担当者にホームの実情を伝え、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会の設置、講習会への参加、勉強会、ミーティングを実施している	身体拘束のマニュアルを整備し、職員には入社時や研修の中で周知しています。言葉による制止やフロア出入り口の施錠の弊害についてなど、具体的な事例を挙げ話し合っています。利用者に出て行きたい様子があれば付き添い、拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を実施している		

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	親族の希望により1名活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前アセスメント、書類の読み合わせ、説明を実施し、疑問点や質問の有無の確認をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議で意見を頂いたときには、ミーティングを開き、議事録は公開している	面会時や運営推進会議、法人アンケートで意見や要望を聞いています。家族から出された意見を受けて、入浴の回数を増やす検討を行い、隔日に入浴が出来るように改善したり、ケアについて出された意見は、サービスの向上に活かせるよう職員間で話し合っています。また改善内容は運営推進会議でも報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、業務ミーティングなどで意見を聞き反映するようにしている	ミーティングや会議等で意見を聞いたり、管理者は随時面談を行い意見や要望を聞いています。年1回組合の会議で処遇改善についてアンケートが行われたり、人事考課の際にも意見を聞いています。業務の見直しや休憩時間のとり方等、出された意見は皆で検討し、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社によるスキルアップ手当がありスキルアップする機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の実施、内外研修を回覧し、希望者には業務の調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議で交流、意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメント、入居時カンファレンスで利用者の意見、要望を聞く機会を設けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメント、入居時カンファレンスで家族の意見、要望を聞く機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内覧時にGHでの生活に適しているか否か判断しながら話を進めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を尊重し、出来る限り残存能力を活かしながら生活機能の維持向上をスタッフと共に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とケアの方針について、面会時等にカンファレンスを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みのものを出来る限り置くようにし、家族が制限される方以外は、9時から18時まで面会できる	以前住んでいた近所の方の訪問があり、居室でゆっくりと過ごしてもらっています。好きな芝居を見に行ったり、馴染みの駅近くで外食を支援しています。また近隣の他施設との交流では知人と出会ったりしています。家族と行きつけの店での外食や法事、帰宅の際は出かけるまでの準備を手伝ったり、最近の様子や状況を伝えています。これまでの馴染みの場所や人との関係が継続できる支援を心がけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員、もしくは、2グループに分かれてのレクリエーションを実施している		

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(主に入院)してもお見舞いに行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向の表明できる方は、出来る限りそれに沿えるように、出来ない方は、家族、身元引受人の方等に話を聞き、また日々の生活の中で本人本意の生活を探すように努めている	面接時に本人や家族から生活歴や趣味等を聞き、ケアマネジャーからも情報を収集してアセスメントシートに記入し、職員間で共有しています。入居後は、関わりの中で得た情報や職員の気づき等から思いを汲み取り、カンファレンスの中で意向に沿った支援となるよう検討し、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話や家族からの情報を共有できるように記録している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を毎日記録、医療機関対応時の記録を行い、申し送りし現状を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、本人、家族の意見を取り入れ計画作成を行っている	アセスメントシートを基に、初回の介護計画を作成し、家族の参加を得てサービス担当者会議を開き、1ヶ月後に再アセスメントを行い、介護計画を見直しています。3ヶ月から6ヶ月ごとにカンファレンスを開いてモニタリングを行い、計画を見直しています。医師や家族、親戚の意見を反映させた介護計画となっています。日々の記録は計画に沿って記載され見直しに繋げ易くしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、情報を共有できるようにし、必要時にはカンファレンスを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護、訪問マッサージ、訪問歯科、訪問理容、居宅療養管理のサービスが入っている		

ニチケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用、外注を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の主治医と連携し、定期的な往診、緊急時に指示をもらう	入居前のかかりつけ医を継続できる事や協力医について説明し、選んでもらっています。かかりつけ医や協力医は個々に併せて往診があり、皮膚科等の専門医の往診も必要時に受けることができます。看護師が週1回健康管理を行い、医師や薬剤師と連携を図り、家族にも状態を伝えています。協力医は24時間連絡が取れ、緊急時や夜間は医師の指示で看護師が対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問、利用者の状況を伝え、緊急時には、いつでも対応してもらえる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に病院に行き病院、家族の話聞き、状況を把握し退院前には、カンファレンスを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、本人もしくは家族の意向を尊重し、医療機関等と連携し対応している	入居時に重度化の指針に基づいて、ホームの方針を説明しています。重度化した場合は、医師が現状の説明をし、食事が摂りにくくなった時は、看護師や主治医、家族等と今後の方針を話し合っています。かかりつけ医の往診を受け、協力医や看護師、薬剤師、家族が連携し、看取った事例があります。研修や勉強会の場で支援の仕方や連絡方法等を確認しあい、職員の不安解消にも努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を定期的には受けることは出来ていない。急変時の対応マニュアルは見えるところに掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、地域には緊急時の避難場所の提供も頂いている	年1回ずつ消防署の指導の下と自主訓練を昼夜を想定して行い、夜間は新人職員を中心に訓練を体験してもらい避難経路や避難場所の確認、通報等の訓練を実施しています。また市の防災研修に参加すると共に、県の担当者に来てもらい、避難方法や現状の危険性についてアドバイスをもらい学んでいます。避難場所に指定された小学校に安全に避難できるよう取り組み始めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持、接遇マナーを重点に勉強会を行っている	入職時やマニュアルを用いた研修で接遇マナーについて学び、利用者を尊重した声かけや対応に努めています。排泄支援時の声かけは直接的な言葉を避けたり、プライバシーに配慮した対応に努めています。不適切な対応があればその都度注意したり、個別で面談し、理解できるよう伝えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べ物、飲み物、余暇の過ごし方などを中心に出来る限り自己決定してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴の時間以外は、自分の好きな場所で生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容時には自己にて髪型を決めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容は、出来る限り嫌いな食べ物は避けるか、代替りの一品を提供しているが、ADL,IADL的に食事の準備は困難である	職員は誕生日のリクエスト食や行事食等は利用者に食べたい物を聞きながら献立を考え、利用者は献立を書いたり、テーブルや盆拭き、味見など出来る事に携わってもらっています。外食や出前を取り入れ、手作りおやつと一緒に作ったり、弁当を持って出かけることもあり、食事が楽しみとなるように心がけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎食後確認し、水分は1日1600ccを下回らないようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕は必ず口腔ケアを実施している		

ニチケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁とならないように時間を決めてのトイレ誘導、1人ひとりの排尿サイクルに合わせたトイレ誘導を実施しているが、1名、立位保持が困難なためトイレ誘導が出来ない状況である	個々の排泄の記録を参考に声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。利用者の様子や行動のパターンを見ながら早めの声かけや誘導、見守り等の支援で失敗に繋がらないよう努めたり、トイレでの排泄の習慣ができたことで紙パンツから布の下着に変更になり、利用者の自信へと繋がった方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食材、とろみの使用により予防しているが、緩下剤使用が5名		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り毎日入浴していただけるようにしているが、3~4日に1回が3名いる	入浴の準備は毎日行い、2日に1回を目安に、午後に入ってもらっています。希望により毎日の入浴や足浴をしている利用者もいます。柚子湯や菖蒲湯で季節を味わってもらったり、ゆっくりと入浴が楽しめるよう支援しています。拒否される時は、声かけの工夫や入浴の順番を優先する等、工夫しながら入ってもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に布団干し、シーツ洗濯を実施、体調の確認、室温管理を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会社独自のマニュアル、居宅療養管理制度の導入により誤薬防止を徹底していて、副作用は把握できていない代わりに、薬ファイルを制作し、利用者の薬の効能、副作用を書いたファイルがある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、散歩、月に1回のイベント、家族との面会などで、楽しみを見出せるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出、それが出来ない方は気候、天候を見て散歩に出かけている	気候の良い日は車椅子の方も偏ることなく毎日散歩に出かけています。神社や初詣に出かけたり、遠方への花見などは家族に声をかけ、参加してもらっています。またウッドデッキで過ごすこともあり、外気に触れ気分転換が図れるよう支援しています。個々の希望に沿った外出や買い物など、個別の外出支援に取り組みたいと考えています。	

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則お金は預かっておらずお小遣いとして預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族に連絡できるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者の作品等を展示し、室温管理、換気を十分に行っている	季節感が感じられるよう生花や手作りの作品を玄関や和室、リビングに飾っています。廊下の一角に椅子を置いたり、和室で寝転びながらテレビを見て過ごす方など、好きな居場所で寛げるよう配慮しています。利用者の声を聴きながら温度や湿度管理を行い、掃除が行き届いた清潔な共用空間の中で居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室等で自由に過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、家族の写真等を置き、生活をしている	居室はクロゼットやエアコン、カーテンが備え付けられています。入居時に使い慣れた物を持ち込める事を説明し、筆筒やベット、畳等を持って来られ、家族や本人、職員が相談しながら安全に過ごせるよう配置を工夫しています。畑仕事の道具や趣味の作品、本や大切にしている家族の写真を飾り、購読している新聞を自室でゆっくり読む方など、その人らしい居室で穏やかに過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差が少なく、手すりも付いている為、車椅子でも、歩行でも安全に移動でき、トイレ等は目印もあるが、トイレがわからない方が1名いる		